



協働して課題解決に  
取り組む体験

# 自分の思いや考えを表現して伝えよう

小学校

瑞穂町立瑞穂第三小学校



笑顔と学びの体験活動  
プロジェクト

## 概要

課題解決に協力して取り組む体験活動を通して、自主性、協力、信頼、コミュニケーション、互いを尊重すること等の大切さと楽しさを体感することで、自ら良好な人間関係を築いていこうという意欲とそのために自分ができることを見つけ、良好な人間関係づくりにつなげる。

育成を目指す  
資質・能力

- ・課題解決に向けてアイデアを出し合い、よりよい方法を見つける活動を通して思考力・判断力を育成
- ・コミュニケーションを伴う活動に取り組む中で、自分の考えや思いを伝え合うことで表現力（コミュニケーション力）を育成

## 年間指導計画

	4月	5月	6月	7~8月	9月	10月	11月	12月	1~2月	3月
各教科等	授業：学活 体験活動の めあて作り	体験① 協力の大切さや楽しさを学び、学年を越え協力しようという意欲を醸成	授業：体育 運動会表現 で学び合い	体験② 学年ごとに自主性の大切さと楽しさを学んだり、協力や互いを尊重する時に必要なことを考えたりする	授業：学活、各教科、行事 ・宿泊行事、校外学習においてグループでの活動を意図的、計画的に実施 ・学級、学年において、子供たちの自主性を大事にした活動を積極的に取り組む ・各教科での学び合いの場の設定				体験③ 難易度を上げた体験活動にする等して、進級・進学への意欲を高める	

## 体験① 概要

### 高学年としてともに三小をリードしていこう

- ①体験活動の目的確認
- ②アイスブレイク（緊張をほぐす活動）
- ③知り合う（自己紹介）
- ④縦割り班で集団課題解決プログラム
  - ・気持ちを合わせる大切さ、楽しさを体感するアクティビティ
  - ・班で一つの課題にコンセンサスを取りながらチャレンジするアクティビティ
- ⑤振り返り

## 体験② 概要

### 自分たちの力で宿泊学習を作り上げていこう

- ①体験活動の目的確認
- ②アイスブレイク（失敗を楽しみ、恥ずかしさからくる抑制を取り払う）
- ③宿泊学習の班で集団課題解決プログラム
  - ・伝え合う活動を通してコミュニケーションについて考える。
  - ・協力、コンセンサス、コミュニケーション、自己決定等いろいろな力を使いながら課題解決を目指す。
- ④振り返り

## 体験③ 概要

### みんなで自信をもって進級・進学しよう

- ①体験活動の目的確認
- ②アイスブレイク（失敗を楽しみ、恥ずかしさからくる抑制を取り払う 緊張をほぐす）
- ③学級または学年で集団課題解決プログラム
  - ・コミュニケーションアクティビティ
  - ・協力、信頼構築アクティビティ
- ④振り返り



【学校・教員】

- ・笑顔と学びの体験活動プロジェクトで目指すこと、体験活動での教員の関わり方について共有
- ・年間活動予定の確認
- ・縦割り班 班編成
- ・事業者の担当者との打ち合わせ



【児童】

- ・笑顔と学びの体験活動プロジェクトの目的を知る
- ・活動のめあてをもつ

- ・5月下旬の運動会で高学年合同の表現運動に取り組み、その練習を体験活動でのグループを生かして、5、6年生合同のグループで取り組んだ。体験活動で人間関係が構築されていたこともあり、どのグループも一つの目標に向かって積極的にコミュニケーションを取りながら練習をしていた。
- ・体験活動の縦割り班を生かして特別活動の縦割り班も編成し活動。5年生の6年生への協力性が高まり、活動がスムーズになった。

「子供たち自身の気付き（学び）の瞬間をなくしてしまわないように、じっと待つ」ことが大切で、教員の意識を変えていくことも必要だと感じました。



子供たちに活動で目指すことを理解させようえで取り組み、事後の振り返りで自分の気付き（学び）を整理したり、子供たち同士で共有したりすることでより学びの質を高められることも感じました。

## 高学年としてともに三小をリードしていこう (5、6年生合同 縦割り班)

- 体験活動の目的確認
- アイスブレイク
  - ・緊張をほぐし、課題解決に前向きに取り組めるようにすることを目的としたアクティビティを実施した。
- 知り合う（自己紹介）
- 縦割り班で集団課題解決プログラム
  - ・気持ちを合わせることの大切さ、楽しさを体感しながら、クリアした際に達成感を感じることができるアクティビティを実施した。課題解決の過程でコミュニケーションが必要であることを学んだ。
  - ・心をひとつにして課題達成に向かう大切さ（コンセンサスを取りながらみんなで意思統一して動くことの大切さを体感するアクティビティ）を実施した。
- 振り返り
 

「達成したときの気持ち」、「どうしたらみんなの息が合うか」、「ひとつのことをやる時に必要なこと」、「そのために自分は何をしたか」等を振り返り、共有した。





## 【学校・教員】

- ・宿泊行事で目指すことと今回の体験活動とのつながりを確認
- ・事業者の担当者との打ち合わせ（今回の活動の目的の共有）の実施
- ・体験グループの編成



## 【児童】

- ・宿泊行事に向けてめあてをもつ
- ・体験活動の目的を知り、めあてをもつ

- 5年：事後の宿泊学習で発展的な取り組みとして、山梨県にある「プロジェクトアドベンチャーホームコース」を訪れ、冒険教育プログラムを体験した。課題に取り組みながら「自尊感情」、「チームワーク」などを学ぶことで、より協働性を高め、その後の活動に高めた協働性を試すグループワークを意図的に設定して取り組んだ。
- 6年：事後の宿泊学習に向けて、児童の実行委員制を取り入れ、目標、取組内容、行程決めなど体験活動で高めた児童の自主性、協働性を大事にした活動を行うことで、更にその力を高められるよう宿泊学習を実施した。
- 日常の学校生活でも特に特別活動を中心に、実行委員制を取り入れた活動を意図的に設けて、継続的な取り組みを行った。



毎日の学校生活の中でも、ちょっとした問題やトラブルに対した時に児童同士がコミュニケーションをとりながら解決している姿が以前より多く見られるようになったと感じた。

## 自分たちの力で宿泊学習を作り上げていこう (5、6年ごと 宿泊行事グループ)

- 体験活動の目的確認
- アイスブレイク
  - ・みんなが失敗をする活動を通して、失敗を楽しむことで誰でも失敗はありうることを体感した。
  - ・じゃんけんをすることでたくさんの友達とコミュニケーションをとり、活動への意欲を高めた。
- 伝え合うことについて考えるプログラム
  - ・限られた手段の中で必要な情報をどう伝え合い、みんなでどう組み立てるか、課題解決的なコミュニケーションアクティビティを実施した。
- 宿泊学習の班で集団課題解決プログラム
  - ・3種類のアクティビティをグループごとに取り組むことを通してみんなで目標に向かい達成するためには何が必要かを考えた。
- 振り返り
  - 「コミュニケーションをとるときに気を付けること」「グループを前進させたプラスになる行動や言葉は何か」「一人一人やグループの力を最大に発揮するのに大切なこと」等を振り返り、共有した。



計画・準備・事前学習



【学校・教員】

- ・事業者の担当者との打ち合わせ（今回の体験活動の目的の共有）



【児童】

- ・これまでの体験活動を「みんなで一つの課題解決に向かう時必要なことは何か」、「そのために自分がしたことやできることは何か」、「グループの中でコミュニケーションをとるときに大切なことは何か」といった視点で始めに個人で振り返り、その後学級全体で共有し、前回までの体験活動で学んだことをまとめる。

振り返り・事後

【5年生】

- 来年度「学年の仲間とどうチーム6年生をつくっていきか」「そのために自分ができることは何か」を個人で考え、「どうチーム6年生をつくっていくか」については全体で共有し、来年度学年が目指す目標とする。

【6年生】

- 中学校で、新しい人間関係を築いていくときに、どんなことを大切にしていきたいか個人で考え、その後学級で共有する。

取組・実践

## みんなで自信をもって進学（進級）しよう

【5年生】

- 体験活動の目的確認 ○アイスブレイク
- 学級または学年で集団課題解決プログラム
  - ・情報をどう伝え、どう組み立てるか課題解決型のコミュニケーションアクティビティの実施
  - ・互いに支え合い気持ちをひとつにして課題解決体験を実施した。
- 振り返り  
「課題解決に必要なことは何か」「みんながひとつになるために大事なことは何か」等を振り返った。



【6年生】

- 体験活動の目的確認 ○アイスブレイク
- 学年で集団課題解決プログラム
  - ・学年一人一人の力が解決に必要なアクティビティを実施した。
  - ・高い集中力とみんなで息（気持ち）を合わせるアクティビティを実施した。
  - ・難易度が上がり難しそうだが、みんな協力して挑戦することで信頼構築にもつながるアクティビティを実施した。
- 振り返り  
「取り組む前と後の気持ちは？」「難しそうなことや新しいことに挑戦するとき大事なことは」等を振り返った。



成果

- アクティビティの楽しさや面白さが自然な形で児童の自主性や主体性、コミュニケーション等を引き出してくれたので、自主性やコミュニケーションスキルの向上につながった。
- 集団で一つの目標に向かって取り組み、達成や成功経験は、児童が周囲の友達から必要とされ認められていると感じる機会を生み、自己肯定感を育てたり、集団への所属意識が強くなり、集団への貢献意欲が向上した。
- 体験活動を通して児童の自主性や協働性が高まったことと一緒に参加している教員が自主性や協働性を高めることの大事さやそのためのポイントを学んだことで、今まで以上に学習や行事等の中で児童の自主性を大事にしなが、自分たちで協力して課題解決する場を設けることが増えた。
- グループや学級・学年等集団での活動で失敗やミスがあった際に、それを責める言葉より前向きな言葉掛けが増え、スムーズに課題解決に向かえるようになった。
- 今年度、対話的な学びの充実におき校内外研究に取り組んできたが、この体験活動で高めた協働性が、対話的な学びの充実にもつながった。

